

---

# 神様のおもちゃ箱

仁科治

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神様のおもちや箱

### 【Nコード】

N2753L

### 【作者名】

仁科治

### 【あらすじ】

「コツを飲み込んでしまうことさ。それさえできれば、ね。大きくなればもつと難しいことはね、たくさんあるんだよ」

## ？Ⅰ 4 和服の義母と暮らした夏休み

？Ⅰ 4 和服の義母と暮らした夏休み

> 最初の手紙 4 <

算数の授業が始まってすぐに問題集が配られた。

前列から回ってきた問題集を見て、僕は解答が付いているのを見た。僕はすぐさまそれを問題の回答欄に書き込んだ。

書き込み終わって顔を上げると同時に、担任があらっという顔をした。予想したとおりだった。担任は解答を回収すると言った。

僕は家に帰って、写した解答を堅い芯の鉛筆で強く書いて、その後を消しゴムで丁寧に消した。筆圧が解答欄に残った。

算数の授業で翌日から担任はその問題集を使用した。

その問題集は式も書かなければならなかった。僕は、どうやってその答えになるのか、問題文に出ている数字をいろいろやりくりしてみた。

初めは時間がかかった。しかし、慣れてくるうちに、問題の答えにたどり着くには一定の約束事があることに気づいた。その約束事にそって数を当てはめていくと、書き写した解答にたどり着くことができた。パズルを解くような面白さがあった。僕は、算数の授業が楽しみになった。

問題集が三分の一あたりになると、担任は不思議がった。

僕が正解するのが、奇妙な感じだったようだ。

答えができると、担任のところへ持って行って確認の丸をもらう。初め、僕は用心して、いつもクラスの真ん中あたりで持って行った。しかし、面白くなってくると、だんだん早く持って行きたくなかった。

問題集が半分をすぎるところには、解答を見なくてもおおその見当がつけられるようになった。

「あなたは最近、よく勉強しているわね」

僕が一番最初に解答を持って行ったとき、担任が突然言った。赤く縁取った唇から白い歯が見えた。初めて僕に笑いかけてくれたような気がした。周囲が僕を注視するのが分かった。僕はそくさと自分の席に戻った。ズルがばれるのが怖かったのだ。

夏休みになった。

父が僕の前に現れた。和服の似合う義母を伴っていた。

祖父の事業を継いでいた。その後、祖父が築いた会社を倒産させてしまったのだが、当時は、羽振りがよかった。

夏休みに父のもとに預けられることになった。祖母がよく了解したと思うが、一カ月間、僕は父の家で過ごした。

父の家の隣りに帰省中の大学生がいた。

どういうことからか、僕は大学生のところに遊びに行つて、算数を教えてもらうようになった。義母がそうしむけた節もあった。

大学生は静かな人で、僕が差し出した問題をじつと見て考えた。それから、ふううつと息を吐き出してから問題の解き方を示した。

僕が理解できないでいると、一つひとつ僕の疑問に答えながら説明した。

顔の造作はよく覚えていないが、話し方がとても優しくかった。

「なんだ、こんなことなのか」と僕が言つと、「そうだよ。何も難しいことはないんだよ」と言った。

「そうなのか」

「そうなんだよ」

僕のつぶやきにも応えてくれた。

僕は安心した。そして、僕は驚いた。それまで学校であれほど苦勞しても、迷路になっていたことが、こんなに簡単に僕の前にすがたを現してくるのが驚きだった。

「僕は、ズルを怖がらなくてもいいよね」

「君はもう、大丈夫だよ。こんなことは何でもない。数字の置き場所を見つけてやればいいだけだから、それさえ飲み込んでしまえ

ばね」

他の学科も同じだった。僕は謎の解き方を覚えた魔法使いになった気持ちがあった。しかし、大学生が言った「大丈夫だよ」の言葉には別な意味もあった。

二週間ぐらいたつころになると、僕はポツリポツリと大学生に僕の家のことを話すようになった。話してもいいように思えたからだ。話しているうち、僕の心配事は何事もない表情に変わっていった。

「コツを飲み込んでしまうことさ。それさえできれば、ね。大きくなればもっと難しいことはね、たくさんあるんだよ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2753/>

---

神様のおもちゃ箱

2010年10月28日08時39分発行